

教科	国語	単元名	文法
----	----	-----	----

## 本時のねらい

- ・言葉の単位を知り、文節分け・単語分けができるようになる。
- ・ICT 機器を活用することにより、「自分から集中して課題に取り組む」「課題を最後までやり抜く」(個別のねらい) 自分の言葉で自己を表現できるようにする。  
集中力を継続して課題に取り組む、課題提出ができる。

## 本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

- ・自動採点機能を持つ漢字ドリルを活用し、ポイントを貯めながら正誤判定がリズム良くできることで、集中して取り組むことができる。
- ・課題(今回は文節・単語分け)をタブレット上に表示し、直接書き込むことにより推敲することへのハードルを下げる。

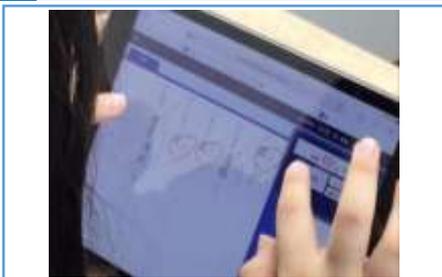
## 活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・ミライシード
- ・Teams Class notebook
- ・電子黒板

## 本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (5分)	○新出漢字の習得をドリルパークで行う。 【写真 1】	○以前にプリントで学習した漢字をドリルパークを使うことで復習し、不正解の漢字も全て正解になるまでやり直しできる。
展開 (30分)	○言葉の単位について、電子黒板でパワーポイントを使いながら小学校の既習事項「文章」「段落」「文」について確認する。 ○新しく習う「文節」の説明をし、文節の分け方を示す。 ○文節分けの時に「食べている」などの注意をしないといけない分け方を示す。 ○Teams Class notebook に提示している文節分けの練習問題に分けるところを書き込む。 ○同じように「単語」の説明をし、単語の分け方を示す。 ○「食べた」や「食べます」などの注意をしないといけない分け方を示す。 ○Teams Class notebook に提示している単語分けの練習問題に分けるところを書き込む。 【写真 2】	○電子黒板で表示させることにより、指導者と学習者が共通の画面を見ながら確認をしていくことができる。 ・端末を活用する利点 (Teams Class notebook を活用) ①書き込みをする部分を拡大表示することができる。 ②色分けができるので、見やすく、わかりやすいので、視覚支援になる。 ③間違えても何度も直せるので、何度もチャレンジしてみようという気持ちになりやすい。
まとめ (15分)	○言葉の単位・文節分け・単語分けについて、わかったこと・気づいたことを Teams Class notebook のまとめのところに書き込む。 【写真 3】	○Teams Class notebook で練習問題やまとめをすべて 1 ページで見られるので、復習する時にどんな事をしたのか思い出しやすくなる。

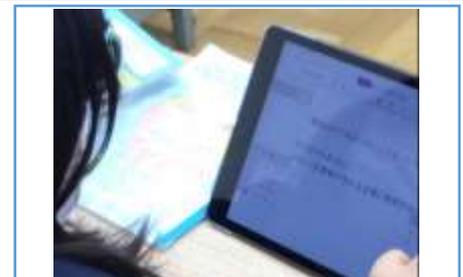
## 1 人 1 台端末を活用した活動の様子



(写真 1)ミライシードのドリルパークで漢字ドリルに取り組む様子。



(写真 2)Teams Class notebook で文節分け・単語分けに取り組む様子。



(写真 3)Teams Class notebook でまとめを書き込んでいる様子。

## 児童生徒の反応や変容

- ・ドリルパークの漢字ドリルは、間違えてもやり直しをして、全て正解になるまでできるので、達成感があり、モチベーションを持続しやすい。
- ・Teams Class notebook で練習問題をすることで、色分けができ、見やすく、わかりやすい。また、間違ってもすぐ訂正できるので、チャレンジするハードルが低くなる。

## 授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・間違えたくないという気持ちが強い生徒に対して、Teams Class notebook を使うことで、チャレンジしてみようと思う気持ちのハードルを下げる事ができたと感じた。また、ドリルパークの漢字ドリルもやり直しがあり、満点になるまでできるので、自己肯定感も上がりやすいと感じた。